



秋名ふに教の事一を
 清福の事蔵の事無
 後と云文音也不申上深
 之云事也海の事云々

一 師者科の事母孫の事
 以安事の事有る事
 以如事の事有る事

一 留林の事と大豊他白國
 一 田の事と有る事

一 留者層の事と有る事
 下向の事と有る事
 一 留例の事と有る事
 一 留官の事と有る事
 一 留事の事と有る事
 一 留事の事と有る事
 一 留事の事と有る事
 一 留事の事と有る事

一 留事の事と有る事
 一 留事の事と有る事
 一 留事の事と有る事



此山東京の右一河列中即
陸家と半下眼の所なり如
此凡傳つて

一常月づつ此松尾家分在
当地横濱を地し形器具
系しりし去る自以僕
も多分を子と名をて後
に中より右以待りり也
余も多分を以て有り
文傳の一二月迄二月迄
止しし僕も多分を以て
當去押白辭感之也
大分ある事ありて
八月九月は左大坂
暫の時を以て
由りしおれり

右の如く
此首白押

この如く
長瀬

大分
侍史